

	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
	数値目標実績	数値目標実績	数値目標実績	数値目標実績
	その他の実績データ	その他の実績データ	その他の実績データ	その他の実績データ
	○主な取組実績等 (H17 年度以前の取組も含む)	○主な取組実績等	○主な取組実績等	○主な取組実績等
1. 資源の循環 物語 (物語のあらすじ)	① 1 人当たりのごみ排出量 896 g／人・日 ② リサイクル率 20.4 %	① 889 g／人・日 ② 20.4 %	① 873 g／人・日 ② 19.8 %	① 914 g／人・日 ② 20.5 %
ごみの排出量が増えると費用負担も増える従量制を取り入れ、新たなごみの分別を開始した私たちは、ごみの減量化に向けて次なる作戦に打って出ました。 ごみの発生を抑制する第一歩として、「レジ袋削減・マイバッグ推進運動」が展開されていきます。やがてレジ袋を有料化するお店が増え、自前の買い物袋を持ち歩く人々の姿を目にするようになります。過剰包装など多くのごみが出る商品は選ばない賢い消費者が増え、使い捨てよりも長く使えるものを好む生活様式が浸透していきます。金融機関は、市民が排出するごみの量が減ると預金金利が高くなる環境預金を始め、ごみ減量の努力が報われる社会が形成されていきます。 今や人気を博するフリーマーケットなど多様な市場を通じて中古品が活用されています。こだわりと愛着をもつてなるべく修理し、暮らしの逸品として物を大切にする文化が根づいてきました。 物語は、再生利用（リサイクル）によって大きく展開します。環境産業の市場規模が拡大するなかで、滝川でもリサイクル産業が徐々に増えています。廃食油が燃料に生まれ変わり、生ごみが資源として循環利用されていきます。稲わらなどの未利用資源から紙を作り、さらには地中で微生物に分解される生分解性プラスチックの製造まで、地域資源を活かした環境産業が広がりを見せ、雇用の拡大にもつながっています。 そして 2 0 1 5 年、ごみの排出量は減少し、大人から子供まで資源を大切に利用する「環のまち」滝川市民が街を行き交っています。	○ごみ処理手数料の従量制徴収 ○集団資源回収奨励金の交付 ○滝川市リサイクルフェアの開催 ○滝川市フリーマーケット情報交流事業 ○不要カレンダー等回収及び配付事業	◇滝川ふろしきルネッサンスセミナー開催	◇レジ袋利用抑制促進に向けた協定締結 ○そらぶちキッズキャンプエコバッグ制作・配付(在庫数がなくなるまで継続) ※併せて、周知イベントとして「たきかわ「そらぶち」と「エコ」のシンポジウム」も開催	
2. 創エネ・省エネ 物語 (物語のあらすじ)	① 省エネモニター CO2 削減量 データなし ② バイオマス資源の利用 率 → バイオマスタウン構想に基づき、数値目標は持たないこととした ③ バイオガス発生量、発電量 76,400 m ³ 、720,416kWh ④ 天ぷら油燃料消費量 576 %	① 4.9 % 増 (19 世帯、ただし電力消費 量のみを対象) ③ 75,600 m ³ 、759,867kWh ④ 4,800 %	① 2.9 % 減 (58 世帯、ただし電力消費 量のみ対象) ③ 67,800 m ³ 、699,319kWh ④ 6,500 %	① 0.78% 増 (50 世帯、ただし電力消費 量のみ対象) ③ 38,096 m ³ 、670,942kWh ④ 16,190 %
戦時中に石炭から石油代替燃料を製造する人造石油株式会社が立地し、エネルギーに深い関わりを持つ滝川では、石油などの化石燃料にかわる環境にやさしい地域エネルギーの創出にチャレンジしています。生ごみから電気や熱エネルギーを作り出すメタン発酵施設が順調に稼働する一方で、稲わらや木くずなどこれまで利用されていなかったバイオマス資源の利用、そして豪雪地帯ならではの雪氷エネルギーの利用が徐々に進んでいきます。また、石油にかわる水素社会の到来が見込まれるなかで、水素エネルギーの製造や水素で動く燃料電池など環境配慮型のエネルギー産業が活性化します。 バイオマス資源の利活用を進める滝川では、トラックやバス、ごみ収集車がナタネ油や廃食油からつくられた軽油代替燃料で走り、住宅地では、省エネルギー型住宅の増加とともに周辺の街路灯が節電型のものに切り替わるなど、地域の省エネ対策が進んでいます。市内の家電販売店は、店頭の製品に省エネ度合を表示するようになり、消費者は長期的な省エネ効果を考えながら商品を選択しています。コンピューターの普及に伴い、インターネット版環境家計簿を試す主婦は、経費節減と地球温暖化防止の両方を実感しながら、省エネを楽しんでいます。 子どもたちは学校内での省エネに取り組み、お父さんは、自家用車の運転に気を遣っています。 駐停車時のエンジン停止や急発進、急加速をしないことで消費燃料を節約し、二酸化炭素の排出量を削減するのです。さらに、これまでの車通勤を控え、会社で優遇される徒歩や自転車の通勤に変えました。 企業は、たとえ小さな会社であっても環境に気を配り、そのような企業に低利融資を行う金融機関も増えてきました。 そして 2 0 1 5 年、市民・事業者・行政が総力をあげてエネルギー対策に取り組む「環境都市たきかわ」の姿がそこにありました。	○一般廃棄物の生ごみバイオガス化处理 (H15 年度～) ◇使用済み食用油燃料化事業化可能性調査実施 ◇ナタネ油の BDF 化実証利用事業 ○小中学校への出前授業	○省エネモニターの実施 ○天ぷら油燃料化事業の実施	◇新エネルギー教室の開催 (小学生対象) ◇燃料電池教室の開催(小学生対象) ◇燃料電池自動車(ほかエコカー試乗会)の開催 ◇滝川市地域省エネルギービジョンの策定	

	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
	数値目標実績	数値目標実績	数値目標実績	数値目標実績
	その他の実績データ	その他の実績データ	その他の実績データ	その他の実績データ
	○主な取組実績等 (H17 年度以前の取組も含む)	○主な取組実績等	○主な取組実績等	○主な取組実績等
3. 農・山・川 物語 (物語のあらすじ)	①農業体験年間参加者数 1,237 人/年 ②石狩川ルネサンスの森市民植樹祭植樹本数 1,600 本(事業開始からの累計 2,100 本)	①1,274 人 ②500 本(累計 2,600 本)	①1,311 人 ②600 本(累計 3,200 本)	①データなし ②400 本(累計 3,600 本)
農業者が生産する減農薬・減化学肥料米の普及に向けて市民団体が支援をはじめました。消費者への情報提供や交流を通じ、顔の見える生産者としての信頼を得ることで、徐々に地元の理解も深まってきました。安全と安心を売る滝川の農産物が、広く消費者の支持を得て農業が活性化すると同時に環境保全にも貢献しています。 学校給食に取り入れた地元産食材が好評で、生産者自らが熱心に子どもたちと交流する食育や総合的な学習の時間で行われる農業体験を通じて食の大切さを実感しています。 一方、生態系の維持や水質の浄化、地球温暖化の防止など多面的に役割を果たす森林は、市民の植樹やボランティア団体の保全活動に支えられ、面積は小さいながらも適切な管理で守られています。癒しの空間として難病の子どもたちのためのキャンプ施設が整備され、森林浴や自然体験の場を求めて多くの人々が訪れています。 そして、川に目を向けると、市民によるラウネ川・熊穴川の水質浄化運動が展開されています。 石狩川・空知川をはじめ多くの河川に恵まれている滝川では、カヌー体験などを通じて子供から大人まで水に親しみ、環境教育の場としても利用されています。様々な市民団体が主体的に活動し、これら自然環境の保全や環境教育の推進に大きな役割を果たしています。 そして 2015 年、農地、森林、河川を一体のものとして保全してきた結果、生態系が保たれ、豊富な水に恵まれ、人々は良質な自然環境のすばらしさを享受しています。	○親子農業体験塾 ○地産地消交流給食の実施 ◇減農薬米の販売 ◇北海道植樹祭の開催 ○まちづくり・川づくり協議会の活動推進支援 ○滝川遊学会事業における自然体験等 ○そらぶちキッズキャンプ実現化支援	○滝川産ナタネ油の生産及びブランド力向上への取組	◇地場農産物販売拡大事業	◇地産地消推進イベントの開催 ◇なたね油や菜の花オニオンソースなどをそらぶちキッズキャンプ応援ブランド商品の発売
4. 人の環づくり 物語 (物語のあらすじ)	①環境学習リーダー人数 10 人（累計 10 人） ②環境市民大会の参加者数 107 人／回	①16 人（累計 26 人） ②150 人／回	①34 人（累計 60 人） ②147 人／回	①12 人（累計 72 人） ②150 人／回
これまでに描いた 3 つの物語が筋書きどおり進行するためには、「人の環づくり」が欠かせません。 物語の登場人物である市民・事業者・市がそれぞれの役割を果たし、お互いに協力しなければならないのです。 私たちは、「知ること＝興味を持つこと」から始まり、「学習」「教育」を通じて環境に配慮した行動を身に付けていきます。さらには、「参加」や「交流」といった人と人のつながりのなかでお互いを理解し、仲間を増やすことで環境配慮に広がりが出てくるのです。その第一歩として、必要な情報が行きわたる、必要なときに情報が得られる、そんな当たり前のことを実現する取り組みをはじめました。 そして、子どもから大人までそれぞれの世代や場面に応じた環境教育が行われています。家庭では、食事や買い物、遊び、家事を通じて環境に配慮した暮らしの知恵を学び、学校では総合的な学習の時間や社会科、理科、体験的な学習を通じて知識を習得していきます。環境に配慮した行動が習慣となり日常的に実践できるよう学校生活のなかでごみの分別や電気の節約に取り組んでいます。 職場では従業員の環境教育が行われ、事業活動のなかで実践されています。そして地域では、清掃活動や人々の交流を通じてパートナーシップが形成されています。このような意識の醸成は長い時間を要するもので、終着点はありません。 そして 2015 年、情報が行き交い、人々が交流し、お互いに学びあう、そんな「人々の環」が滝川に形成されています。	◇「エコフォーラム in たきかわ」の開催 ○環境学習リーダー養成講座の開催 ○たきかわクリーンデーの実施	◇「滝川ふろしきルネッサンスセミナー」の開催(再掲)	◇広報紙への「エコ寄合所」コーナー掲載（隔月掲載） ◇「たきかわ「そらぶち」と「エコ」のシンポジウム」の開催(再掲)	◇「たきかわ環境シンポジウム～エコでいこう、たきかわ！～」の開催

○：継続(的)事業、◇：単年度事業